



鈴鹿8耐 歴代最多優勝者、宇川徹氏の来場が決定 !! 7/28(土)・29(日)の2日間、さまざまなイベントに参加 !

7月29日(日)に決勝レースが行なわれる2007 QMMF FIM 世界耐久選手権シリーズ第3戦 "コカ・コーラ ゼロ" 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第30回記念大会に、同大会で5勝の最多優勝記録を持つ宇川徹氏の来場が決定した。

宇川氏は、1990年の鈴鹿4時間耐久ロードレースに、現在はTEAM GREENから全日本JSB1000に参戦する柳川明選手とのペアで出場して優勝。さらに1991年に鈴鹿6時間耐久ロードレースでも優勝し、これが契機となり1992年から国際A級(現在の国際ライセンス)に昇格。同年からホンダレーシング(HRC)の一員として全日本GP250に参戦する。

翌1993年には、同チームのエース岡田忠之選手の世界GPフル参戦により、全日本選手権におけるHRCのエースに昇格すると、抜群の速さを発揮して1993~1994年に全日本GP250チャンピオンを獲得。その後、1995年のランキング2位を経て、1996年から世界GPの250ccクラスにフル参戦を開始。2001年からは世界最高峰のGP500を闘い、2002年からMoto-GPクラスに参戦、2002年第2戦 南アフリカGPで優勝。日本人初のMoto-GPクラス初優勝を果たす。その後、2004年から開発ライダーに転身。

鈴鹿8耐には1994年に初参戦。当時、「4耐、6耐で勝っているのが、最高峰の8耐で勝つのが目標であり、夢でもある」と語っていたが、それが実現したのは1997年、伊藤真一選手とのコンビで挑んだ第20回大会でのことだった。エルニーニョ現象で冷夏となったこの年、台風の影響で天候も荒れたが、堅実なライディングで優勝。鈴鹿8耐では、台風が直撃して6時間に短縮された1982年の第5回大会で、Honda社内チームの飯嶋茂男氏、萩原紳治氏が優勝しているが、フルタイム8時間での日本人ペアの優勝は、1997年の伊藤選手、宇川氏のペアが初めて。この優勝から、現在も記録更新中のHondaの鈴鹿8耐10連勝が始まったが、この10連勝中に宇川氏は1998年の第21回大会に伊藤選手と2年連続優勝を達成。さらに2000年の第23回大会で加藤大治郎氏と、2004年の第27回大会では井筒仁康氏、そして2005年の第28回大会では清成龍一選手とのペアで優勝して、計5勝をマークするという高い貢献度を示している。

なお、鈴鹿8耐での最多優勝記録は、1992年の第15回大会で4勝目を記録したワイン・ガードナー氏が保持して『ミスター8耐』と呼ばれていたが、2005年に宇川氏が5勝目を記録し、新たに『ミスター8耐』と呼ばれる存在となった。

現在は、ロードレースの最前線からは身を引いているが、全日本、世界GP、そして鈴鹿8耐で数々の栄光の記録を持つ宇川氏。予定されるトークショー等では、現役時代では語られることのなかった裏話など、興味深い話が聞けるはずだ。



2005年(第28回)8耐の表彰台にて、8耐史上最多の5勝を挙げて満面の笑みの宇川徹氏(左)。(右は、ペアライダーの清成龍一選手)



2006年モータースポーツファン感謝デーにて、2005年度「モータースポーツ顕彰」に選出され、ファン代表からトロフィーを受け取った宇川徹氏。

